

逆異世界同棲 魔王編

修正稿

2020.04.05

## トラック1…日常パート

SE:扉を開く音

やっと帰って来たか、貴様。ずいぶんと遅かったではないか。  
ほう…仕事が長引いた、と？ ふん…貴様の事情など知らぬ。  
食事の時間はとうに過ぎておるぞ？

さっさと準備をいたせ。

疲れただの、休ませろだの…適当なことを抜かすでないぞ。

口答えは許した覚えはない。さっさと動け、この下郎。

(溜息) 出会って数日もの間…私の望む、食事の時間に間に合ったことが一度としてあったか？

毎日言っておろう？ 誰を待たせていたのか、理解しているのか？ と。

この至近距離で、魔王の姿を拝めるなど…大変光栄な機会なるぞ？

心から喜び、ボロ雑巾のような姿になるまで…私に尽くしてもいいと思うのだがな。

いくら勇者どものせいで魔力を失い、人間界に転生したとはいえ…

私は数多の配下を従え、不愉快な人間どもをペットとして飼育してきた魔王であるぞ？

本来であれば、貴様のような俗物が共にしていい存在ではない。

しかし…くく…何の因果か、一人彷徨う私の前に、貴様が姿を現したのだ。

ふっ、貴様はツイているぞ？

私のような魔族の長と、寝食をともにできるのだからな。

ほれ、何を悠長に立ち尽くしておる！

さっさと私を満足させられるような食事を準備してみせよ！

SE:ソノロの火を灯す

(香りを嗅ぐ仕草) …ふふ…いい香りがしてきたではないか。

いいぞ……実に楽しみだ。

おい、手を止めるでない、早くしろ！

SE:ソノロの火を消す

ふむ、ようやく……食事の準備ができたか…どれ…

(大きな溜息) なんだ、この食事は？

こんなものを私に食せというのか？

見栄えも悪く汚らしい。これは料理とは呼べん、私が燃やし尽くしてやる。

SE:炎の音

（得意げに）ふふ、私の力を侮るでないぞ？  
火を放つなど、朝飯前よ。

それにしても：貴様は本当に使えぬな。

そのモンスターよりも小さな小さな脳みそで、きちんと考えなかったのか？  
小汚い料理をを並べられ、私が不快に思わぬと？

（吐き捨てるように）あり得ん、貴様は低俗モンスター以下の存在だな。  
彼らですら、私の食欲を満たす料理を作れるというのに：

人間はもう少し賢い生き物かと思っていたのだが、やはりどこいつもこいつも獣以下か：  
ふん、食事はもういい。私は先に寝る！

ここにあるのは、私のベッドと比べれば実に窮屈なものだが：ないよりはましだ。  
シーツは：塵ひとつ残さず、掃除を終えておろうな？

料理は壊滅的であっても、普段から整理整頓を心がけて――……

：（呆れたような溜息）よもや、貴様には何の期待も出来ぬな。  
周囲を見渡してみろ。

：そう、そこだ。床を転がっている灰色の物体が目に入らぬか？  
ほこりが残っているであろう？ 綺麗に掃除せぬか、馬鹿たれ。

：くく、どうした？

あまりにも理不尽に言葉を投げかけられ：腹を立てておるのか？

そんな軟弱な目で睨みつけられたところで、意味もないわ。

それに：貴様、また私に口答えをしたか？

仕事忙しいのは理由にならん。

私がその程度の理由で納得するわけがなからう？

召使いはな、自分自身の事は気にかけず、主の身の回りのことだけを考えておればいいのよ。

貴様はまだ、自分の立場を理解できておらぬか…。

貴様はただの召使いではないぞ？

召使い以下：私のペットだ。

アンアンと啼き、ケツを振るだけの存在よ。私に反抗することは決して許さぬ。

ペットはペットらしく、主の命令に忠実に従えばいいのだ。

：なんだ、その目は？ 私に何か文句でもあるのか？

（じつと鋭い瞳で見つめるように）

そうか、貴様にはまだ：調教が足りておらぬようだな。

よろしい……貴様は特別だ。

私が直々に、その身に快感を刻み込んでやろう。

私に二度と逆らう気が起きぬよう、徹底的に扱いてやるから……覚悟しておけ。

FO

## トラック2…乳首開発指導

聞こえなかったか？

私が調教してやると言ったのだ、シャツだけを残し他は脱ぎ捨てなさい。何度言えばわかる？ 貴様に拒否権はないぞ？

ただ、私の命令に従っておればいい。

ほれ、一枚ずつ脱いでいきなさい。

（呆れたように）何をもったいぶる必要があるのだ。

貴様のような貧相な体など見慣れたものよ。

無論、屈強なペットも見てきたが、貴様の肉体は彼らの足元にも及ばぬ。

だが、その反抗的な目は負けておらぬぞ？

ひどく苛立ち、今にも私に襲いかかりそうな勢いではないか。

…くく、貴様などにやられる私ではないがな。

次、私に逆らってみよ、その時は…（楽しそうに）煉獄の炎で焼き尽くしてやろう。

ふん…私を鋭く睨みつけておられるのも、今のうちだけだろうがな…

貴様の存在意義は…私の召使い兼ペット、ということだけよ。

ペットはむやみやたらに口を開くではない。

ただ快樂に溺れ、嬌声をあげる時のみ口を開くのだ。よいな？

（苛立ち混じりの溜息）無駄なことを考えずともよい。

簡単な事だろう？ 私の命令に従い、ただその身を快樂に任せればよいのよ。

こんなこと、野性的なモンスターでさえもできるぞ？

…僅かにでも…知性が残る人間の貴様ならば、容易なことよ。

準備に時間をかけるでない。

シャツだけを残し、他は脱ぎ捨てよと何度も言うたであろう？

下賤な貴様に触れるつもりは毛頭ない、静かに眺めるだけよ。

…自分自身で一枚ずつ脱いでいきなさい。

もちろん、ただ脱ぐだけではないぞ？

服を乳首に擦り付けるよう意識しながら脱いでいくのだ。

ああ…すりすり擦りつけ…脱いでいきなさい。

…っ…ふふ…ふふ…ああ、そのまま続けて…

（溜息）それにしても…貴様は服を脱ぐのすら遅いのだな。

よくこれで仕事とやらが任されるものよ。

どうせ、他人の足を引っ張ることしかできぬのだろう？

そのような奴は、社会のお荷物にしかならないと考えが及ばぬか？

即刻会社を辞め、日中家におればよいだろう？

貴様は私の召使い兼ペットなるぞ？

私が眠りにつくまでの間は、身の回りの世話をし続けるほうが世の為よ。

まあいい、やっと脱ぎ終えたか…

ふん…くく…とんだ短小ペニスぞ。

これでは世のおなごを満足させることは難しいだろうな。

自身で慰める程度にしか使い物にならぬ。

…おい、貴様。辱めを受けたからといってペニスを隠すでない。

ほれ、主人からの命令だ…

しかと足を広げ、ペニスを見せなさい。

（愉快そうに）？ どうした、ペニスが勃起しかけておるではないか。

貴様は貶められて快感を覚える変態のようだな。

くく、私を楽しませるには必要な才能よ。

しかし、私がいいと言うまで、ペニスに触れるではないぞ？

乳首への刺激だけで感じられるよう、調教をするのだからな。

ふ…調教と聞いて体が喜びおったか…珍しい奴よ。

やはり貴様には…ペットとなる素質が備わっておったようだな。

さつさと仰向けになり、私の指示通りに乳首の開発発を始めよ。

まずはそうだな…シャツの上から乳首を刺激していこうか…

両胸の乳首の上に指を乗せて…乳首を勃起させるよう、さすさすと摩りなさい。

乳首は痛みを与えたからといって感じらるれわけではない。焦らすように、少しずつ刺激を加えていくのだ。

さすれば…乳首だけで快感を得られるようになるだろう。

始めのうちはさす…さすと…ゆっくりで構わぬ。

ほれ、私の掛け声に合わせて乳首を摩りなさい。

（ゆっくり、さすさすと4回連呼）

ふふ…少しずつ…乳首が反応しておるのがわかるか？

シャツの上からでもわかるほど、乳首が硬くなってきたぞ…

くく…今まで乳首を弄った経験がなくとも…刺激し続ければ変わっていくのだ。

おなごのように乳首で感じ、いづれは達することもできるであろう。

ほれ、手を止めるでないぞ。

乳首でイケるようになるまで…私が調教し続けてやろうではないか。

ふふ…楽しみにしておるぞ。貴様がだらしのない顔をして、乳首を弄り続ける光景をな。

…おい、どうして手を止めておる？ 私がいつ、手を止めていいと申した？

そうか…最早摩るだけでは物足りなくなった、と…。

であれば、乳首を親指と人差し指で摘み、指の腹でコリコリと擦り、刺激なさい。

(楽しそうに、コリコリと4回連呼)

これ、勝手に止めるでない。さらに続けるのだ。

(コリコリと6回連呼)

くく…息が上がってきておるぞ？

わかりやすく乳首で感じおって…ふふ、良い兆候ではないか。

何を戸惑う必要がある？ 私が今、貴様に出している命令は何だ？

…ああ、そうだ、私に反論することなく、愛撫に集中し…喘ぐのだ。

(言い聞かせるように) 貴様はただのペット…

主人である私の命令を聞いてさえいればそれでいい。

(楽しそうにコリコリと6回連呼)

ふん、やらしい声を出すではないか。

いいぞ、我慢するでない、私をもっと興奮させてみせよ。

(コリコリと6回連呼)

くく…今頃になって頬を赤く染めておるな。

乳首への刺激だけで感じ、恥ずかしがっておるのか？

それとも、自分の喘ぎ声を初めて聴いたせいかな？

だが喜べ。貴様の嬌声は私のオマンコにきちんと響いておる。もっと…聞かせてみせよ。

ほら、どうした、乳首を弄り続けなさい。

貴様が乳首でイケるようになるまで、私が調教し続けてやると言うたであろう？

素直に喜んだらどうだ？

…いいや…ふふ、光栄に思えよ。

一魔王が下賤なペット一匹と長時間相対し、飽き、捨てるまでの間、調教を続けると申して

おるのだ。

このような戯れの機会、貴様らペットにとっては夢のような時間だろう？

何も堪える必要はないのだぞ？

ただ欲望の赴くままに乳首をコリコリしながら、アンアンと啼きなさい。

ああ…ふふ、それでいい。

少しずつ反抗する意識も消え失せたか…

私のペットである自覚が芽生えてきたようだな。

今後もし決して私には逆らわず、忠実に命令を聞いてさえおればそれでよい。

一人きりでは達することのなかった絶頂へと、導いてやろうぞ…

（ゆっくり、コリコリと6回連呼）

いいぞ、先ほどまでよりも乳首が勃起しておるな。貴様が感じている証拠よ。

おなごのように乳首を弄り、体が喜んでおる…。

どうした？ 今度はコリコリするだけでは物足りなくなってきたというのか？

くく…貴様もとんだ変態な上に…欲張りだな。

だが…いいだろう。少しずつ快感を強めていくのではないか…。

今まで身にまとっていたシャツを勃起乳首に擦りつけながら脱ぎ…全裸になりなさい。

今の貴様の乳首なら、どんな僅かな刺激でさえも、快感へと変化するであろう。

ふふ、ああ、そうだ…それでよいぞ…。

（数秒待つ）

ふふ…これで貴様の体を覆うものは何もなくなったな。

（楽しそうに）くく…どうした…そんな待ち遠しそうな顔で私を見るでない。

安心せい、次の命令をくれてやろう。

ぷっくりと固くなった乳首を、爪ではなく、指の腹で摘み、抓りなさい。

私が指示するタイミングに合わせて、な？

ほれ…1と2のカウントでちゅっちゅと優しく摘み、3でちゅーつと力をこめて抓ってみなさい。

（ゆっくりと数える）1、2、3…1、2、3…

その調子だ、もう少し続けなさい。

（3回ほど続ける）1、2、3…

いいぞ、乳首が赤く熟れてきたようだな。

そのうえ…貴様も高揚とし、息を短く漏らすようになったではないか。

くく…より一層乳首を苛めよ。私を楽しませるためにな。



ほれほれ、手を止めるでない。

…1、2で摘まみ…、3、で抓るのだぞ…

（3回ほど続ける）1、2、3…

（楽しそうに）血液が沸き立つように、体が熱くなってきたであろう？

体が悦ぶ方法を知ってしまったからな…くく…欲望には敵わぬのよ。

だが…言い忘れておった。

私がペットに許す感情は悦びだけよ。

私に対して怒りを向けるな、悲しみを抱くな。ただ指示通りに動き、辱めを受ければよい。

貴様の痴態を見て…私は実に興奮する…！

ほれ、再開するぞ。

（3回ほどゆっくり続ける）1、2、3…

乳首への刺激が堪らないという顔をしておるな。

貴様、本当に乳首開発が初めてか？

その割に…しっかりと乳首で感じる事が出来ておる。

くく…召使いとしての出来は最悪だが、ペットとしてはよくできたものよ。

指示通りに、ほれ…乳首を摘まみ…乳首を抓ると…ふふ…勃起させておる。

余程乳首を弄るのが好きになってきたようだな。

よいぞ、そのまま続けなさい。

きゅーっと乳首を摘まみ……ゆっくり手を離れた後に…乳首を抓るのだ…

乳首へ血が巡る感覚がわかり、ますます体が熱くなってくるだろう？

くす…貴様は初めから、私のペットになるべくして生まれてきたようなものだな。

今まで何百もの人間を飼育してきたが、私をこれほどまでに喜ばせるペットと会ったのは初めてだ。

魔力を奪われ、人間界に転生されたのはひどく残念だが…来た甲斐があったというものよ。

貴様という最高のペットと出会えたのだからな。

なんてな、自惚れるでないぞ？

何度でも言ってやる。

貴様はただのペットだ。愛情など一ミリたりともなく、私の中にあるのは支配欲だけよ。

ほれ、乳首への刺激だけでは足りぬのだろう？

他の性感帯も十分に愛撫させてやるから、しかとその身を快楽に溺れさせよ…！

FO

### トラック3…オナニー指導

乳首を刺激しただけで、ペニスがビンビンにおったっているではないか。そんなに乳首への刺激が心地よかったか？

今にも射精したそうにペニスを震わせおって…ふふ、いいぞ、次はペニスを触らせてやろう。

光栄に思えよ？

これまでのペットは、モンスターに犯されるよう私が仕向けてきたが…魔力が足りていない今、この場にモンスターを呼び出すことは不可能。故に私が直接ペットに命令をしておるのだ。しかと聞き入れよ。

ほれ、まずは勃起したペニスを私の目の前にさらけ出しなさい。

どれ…ふふ…（息を吹きかける）ふーっ…ふーっ…

どうした？ 息を吹きかけただけで呼吸が乱れておるではないか。

私の吐息だけで喜べるとは…ふふ、貴様はマゾか。

だが、何を遠慮しておる、乳首だけでは足りなかったのであろう？

私の指示に従いオナニーに耽りなさい。そして好きなだけ射精するとよい。

そうだな、手始めにおなごを愛でるように、なでなで…と、亀頭を親指で撫でてやりなさい。

（丁寧になでなで…6回ほど）

ふふ、亀頭から我慢汁が少しずつあふれ出てきたようだ。

ぬめぬめと…イヤらしい音が聞こえてきておるわ。

しかし…まだ竿を扱いてはならぬぞ？

快感を体に蓄積し、溜まりきった欲望は最後に吐き出しなさい。

くく…再開だ。

（なでなで…8回ほど）

ほほう、ますます我慢汁が出てきよったわ。

やはり…私に見られて興奮しておるのだな。必死に撫でる分…吐息が漏れておるぞ。

亀頭を愛でるだけでそこまで心地よいのか。

このまま扱うよう命じ続けておれば、すぐにでも射精してしまいそうだな…

貴様、私がいいというまで、空いた手でペニスの根本を押さえながら…扱きなさい。

私が射精してよいというまで…そのままだ。

さあ、本格的に手コキオナニーをしていこうか。

…貴様が普段しているようにペニスを握りシコシコしこりなさい。

もちろん、根元は一方の手で押さえたままだぞ。

ほれ…（シコシコと4回ほど）

私と出会うまで、誰かに見られながらオナニーをした経験などないであろう？

その割に…貴様は、オナニーをしているところを見られて興奮する変態のようだが…よいぞ、最後まで私が見ていてやる。

好きなだけペニスを刺激し、感じなさい。

ふふ…よいぞ…

乳首オナニーでビンビンに勃起したペニスを握り、上下にしこるのだ。

まさかとは言わぬが、一人でオナニーをしている時も、そのようなイヤらしい声を出しておるのか？

まるでおなごのように、啼き、乱れておるではないか。

ふふ…そのまましこり続けなさい。

くく…そんな切なそうな顔をするでない。

誰も、射精してはならないと、言っているわけではないのだぞ？

今はまだ我慢し、しこり続けなさい。

…（シコシコ…と3回連呼）

先ほどまでよりも大量の我慢汁が漏れ出し…亀頭がイヤらしく濡れておるわ。

スケベな匂いも漂い…頭がくらくらしてくるようだ。

しかし…まだ射精してはならぬぞ。

ペニスの熱、硬さを、手のひら全体で感じられるように…私の言うタイミングに合わせてシコシコしてみなさい。

（ゆっくりシコシコ…6回ほど）

どうだ？

スピードを変えてみただけで、また違った感覚を味わえるであろう？

次は少し早めてみよ。

（早めにシコシコ…8回ほど）

くく…反論は聞かぬが、喘ぎ声だけは別なのよ。

貴様の喘ぎ声で、より一層私のアソコを濡らしてみよ。

そして…私を満足させるだけの淫らな姿を見せてみなさい。

ほれ、シコシコ再開じゃ。

（早めにシコシコ…8回ほど）

どうじゃ、気持ち良かろう？ 今にも射精したそうに、体が熱くなっておるか？

だが…ふふ…竿を抜くだけでは物足りぬであろう。

…指で輪っかを作り、扱きながら…その輪っかでカリ部分を擦りなさい。

？ 今更、私に貴様のペニスに触れるよう、頼んでくるか…

残念だったな。私が貴様のような下族に触れるわけがなからう。

高貴な魔族の血が一瞬にして穢れてしまうわ。

貴様が最後まで一人で致すのだ。カリを通過するように、輪っかを通すのだぞ。

（ゆっくりシコシコ…6回ほど）

ふふ、やはり貴様はいい声で啼くのう。

少しずつではあるが私も興奮してきたわ。

だが、まだ足りぬな…：ほれ、もっと擦り、めいっぱい喘ぎなさい。

（コスコス…と6回）

くく…一心不乱にコスコスしておるな。

まるで理性を失った獣だ。…しかしそれでいい。

私は理性を失い、ただ狂うように快感に溺れたペットを眺めているのが大好きでな…。

ふふ、ようやく…マンコが濡れてきおったわ。

ふん…私のマンコの中を想像して、より激しくカリを擦るか…。

だがな、貴様が私の体に指一本でも触れてみる、その瞬間、貴様を燃やし尽くしてやる。

貴様のような下賤な者が触れていい存在ではないのよ、私はな。

けれども、まあ…私のマンコの中がどうなっているかぐらいは想像してもよいぞ。

もっと激しく乱れてくれるのであれば、な。

ほら、手を止めるでないぞ。私の指示通りに根元を押さえたまま…ペニスを扱きなさい。

（優しくシコシコ…と6回）

毎日一人で抜いておるのだろうか？ しこる姿がさまになっておるわ。

ふふ、虚しきことよのう、セックスをするおなご一人おらぬとは…。

くく…安心せい、貴様は私のペットだ。

貴様が私を喜ばせることができれば、私の住む世界へと連れていき、様々な種族の者どもと交尾をさせてやろうではないか。

…ふん、マゾが…。貴様はセックスが出来れば相手は誰でもいいと申すか。

その気概、嫌いではないな。

後程アナルへの快感も覚えさせ、モンスター共のペニスさえ受け入れられるようにしてくれよう。

ふふ、貴様の貧弱な種など必要はない。

モンスターの中にはな、男の体にも種を産みつけられる種族もおるのだ。  
そいつら専用の奴隷にし、子を宿してもらおうか。

ふふ、物好きめ。モンスターに犯される妄想をして、より一層ペニスを硬くさせておるのか。  
血管が浮き出るほど熱く、滾っておるわ。

くく…おい、そろそろ限界か？ 射精したくて堪らないと申すか？

だが涙を流し、射精させて欲しいと、私に懇願するほどではないのであろう？

ほれ、根元を握り続け…もう一方の手のひらを使い、亀頭をもにゅもにゅと揉みこむようにするのだ。

私の言葉に続けて…亀頭を責めなさい。

(優しくもにゅもにゅ…と6回)

蕩けた顔をしよって、よほど気持ちがいのだな。

竿を擦るのは、また異なる刺激に襲われるであろう？

精子を放たないように根元を押さえているはずが、もにゅもにゅとこねくり回すと…何か  
が漏れ出してしまいそうな感覚になってくる。

けれども、そうか…ペニスを抜く快感には敵わぬか…

であれば…親指では亀頭を撫でつつ、カリに触れながら竿をシコシコこるのよ。

ほれ…(なでなで…と4回)(シコシコ…と4回)

勝手にイッてはならぬぞ？

私がいいと言うまで…我慢しなさい。

(なでなで…と6回)(シコシコ…と6回)

ふふ…息が上がっておるようだな。

よい、それではそろそろ絶頂へと導いてやろう。

ペニスの根元から手を離しなさい。そして…今まで我慢していた欲望を全て放出するべく、  
激しくシコシコしなさい！

(早くシコシコ…と6回)

私が射精する瞬間までカウントしてやる。

シコシコを続け…ゼロのタイミングで…出し切れよ。

せーの…10…9…まだイッてはならぬぞ…シコシコ続けなさい…

8…7…6…ほれ、激しくシコれ！

5…4…もうじき天国が見られるぞ？

3…2…1…ほれほれ射精の瞬間だあ、精子をぶちまけなさい！

ゼロッ！ ゼロ、ゼロだーっ！

(煽るように)びゅるびゅるびゅる、びゅるっ…びゅるっ…びゅるびゅるびゅる……  
くく…いっぱい出したようだな。

どうした？ 精子を吐き出した瞬間にびゆるびゆるなど言われて、急に恥じらったか？  
だが：今まで我慢しきっていたものを全て吐き出したのだ。心は悦んでおるのだろうか？  
ふふ、それでもまだ……足りぬと申すか？  
魔王相手に、続きを求めるなど……貴様も肝が据わっておる。  
快感に溺れ始めた証だな。  
よいだろう、次は貴様が弄ったことのない場所を開発してやる。  
引き続き私の命令に従いなさい。

FO

## トラック4…アナル開発指導

次はアナルを開発してやろう。

ほれ、自分で弄りやすいように体を横向きにして、寝転がりなさい。

（数秒置く）

ああ、その位置でよいだろう。

私の位置から、よく貴様のアナルが見えるわ。

開発されるのを待ち遠しそうにして、アナルがヒクついてるのが丸わかりよ。

ふふ、こちら…あまり焦るでない。

ゆっくりと開発していこうではないか。

アナルを刺激する指は、体の向きに合わせてやりやすいものでよいぞ。

無理のない体勢をキープするとよい。

くく…いくら私でも、いきなりアナルに指を入れろとまでは言わないな。  
始めは無駄に力んでしまっている可能性もある…

まずは穴の回りを優しく撫でていくのだ。

私の言葉に合わせよ。

（なでなで…と4回）

？ どうした、私が優しく指導するのがそんなにも意外か？

いや…くく…それもそうか。

しかしアナルが使い物にならなくても今後に支障をきたす。

貴様をペットとして飼い続けるため、最善の方法を選んだだけのことよ。

ほれ、無駄話はもういい。

（なでなで…と2回）

…もう数回撫で続けなさい。

（なでなで…と2回）

どうだ。無意識的に、お尻に込められていた力が徐々に抜けていくのがわかるだろう？  
焦らすように、撫でていくのだ。

（なでなで…と4回）

…ああ、それでよい…

快感に溺れるさまと、痛がり泣き叫ぶ表情とは全く異なるからな。

私は前者が好きなのだ。

ペットとして人間を飼育しつつも…その身を傷付けるような真似はせん。

無論、心はまた別の話だな。



理性を失い、ただ尻を振るペットの姿を想像するだけで…マンコがぐちよぐちよに濡れるわ。

くく…貴様にもその才能があるぞ？ 雄に狩られるだけの、雌になる才能がな。

ふふ、ほれ見よ。お尻の穴の回りを撫でているだけで、ペニスがピクピクと震えておるな。やはり私の見る目は間違えていなかったようだ。

くく…この世界に転生し、始めはどうなるかと思ったが…貴様の家に転がり込むことができたのは嬉しいことよ。

初めてアナルに触れ、感じる事が出来る貴様のような逸材は魔界にもそうそうおらんかな。

ほれ、アナルに指を入れたくなるまで…私が指示を出してやろう。

(なでなで…と8回)

やはり貴様はいい顔をする。

今にも快感に溺れ、私に忠誠を誓いたそうな顔だ。

貴様を快感の底に沈ませることがするのは私だけだからだな。

ふっ…好意などはない。

私はただ…ペットを飼育し、調教をするのが好きだけよ。

それにな、誰もがよい声で啼くわけではない。

私はな、下品な喘ぎ声が好きではないのだ。貴様は…よい具合に啼きよる。

アナルに指を入れ、掻き乱す…より一層甘い声で啼くのであろうな…くく…

？ どうした？ 突然キュッとアナルが締まったぞ？

貴様、私の言葉だけで感じておるのか。やはり変態だな、貴様は。

ほれ、またキュッとなった。

いい景色よ。アナルのしわ一本一本がよく見え、ヒクついた瞬間もきちんと見える。

では、そろそろアナルを直接弄ることとしようか。

ペニスから溢れる我慢汁を指にまとわりつかせなさい。

渴いた指を穴に挿入すると、痛み、感じるどころではなくなるからな。

ふふ、ヌルヌル絡みつかせてる音が聞こえてきよるわ。

そろそろ期待通りの命令をするでしょう…

我慢汁をまわりつかせた指でアナルを塞ぎなさい。

慌てて第一関節まで入れる必要はないぞ？

ただ指で塞ぐ、それだけでよい。

アナルがキュッと締まったり、ヒクヒクと緩まるのを指で感じなさい。

そうだ、一旦深呼吸をしてみるとよい。

アナルの動きを、より指で感じられるようになるためにな。

それ…深呼吸だ…。

息を吸って…吐きなさい…。静かに吸って…吐く…。

（すーはーと深呼吸を促す 3回ほど）

どうだ？ アナルが締まり、緩む感覚が十分に感じ取れただろう？

では次に、アナルに指を入れる準備を進めていこう。

穴の部分を指で撫でなさい。

力強く撫でる必要はない。優しく撫でるのだ。

（なでなで…と4回）

小さく息を漏らしてしまいそうな、くすぐったさが生まれたか？

穴がヒクつき、次の弱い刺激を待っておるだろう？

だが今は…じっと我慢だ。

痛みを感じ、もう二度とアナルに触れたくないと思いつってしまうのは…勿体ないからな。

ほれ、もう何度か穴を撫でなさい。

（なでなで…と8回）

十分に撫でたようなら…少しずつ穴に指を押し込んでみなさい。

指一本をまるまる埋める必要はない。

ただ穴を…ぶにぶにと押すような感覚だ。

力いっぱい押し込むのではない、優しく…穴の場所をしつかりと覚えるように、ぶにぶに押していきなさい。

（ぶにぶに…と4回）

ふふ、いい表情をしておるな。

アナルに指を入れたくて堪らないという表情をしておる…

よいだろう、そろそろアナルに好きな指を入れていきなさい。

無理に第二関節まで入れる必要はないぞ、少しずつ…ゆっくり指先を押し込んでいくのだ。

…ほほう、貴様の指がアナルにめり込んでいくのがよく見えるぞ。  
そんなに焦るでない、じっくり…丁寧に押し込みなさい。

くく…言い忘れておったが、息を止めるでないぞ。

ゆっくり…落ち着いて…呼吸をしながら、入れていくとよい。

…ん…んう…第一関節の半分程度…アナルに入ったようだな。  
であれば一度ゆっくり指を抜き、また挿入していきなさい。

ふっ…ふ…ん…ふふ、いいぞ…その調子だ。  
そのままアナニーを私に見せつけなさい。

（微かに興奮した様子で）

貴様のアナルに、指が出し入れされるさまを見ていると、私も興奮してくる…。

ほれ、また指を入れなさい。

今度はさつきよりも僅かに深く、我慢汁をまとった指をじっくり出し入れするのだ。  
…私の言葉に合わせてみよ…

（ねっとり）ゆっくり…指を入れるのじゃ…アナルを堪能しなさい。

そうだ…柔肉に指を擦り付けるように、ぬぼぬぼ入れて…抜いてを繰り返す…

ふふ、アナルへ指を入れる恐怖が拭えてきたようだな。

先ほどよりも深く指を入れることができておるぞ。

では…そろそろ私も…ん…

（魔王、自分のマンコに触れだす…ここから静かに喘ぎながら）

貴様は…私のことなど気にせずアナニーに耽るといい。

私は私で…好きにやらせてもらおう。

ほれ、アナルへの出し入れを止めるでないぞ…三度（たび）指を入れていきなさい…

ん…はあ…いいぞ…アナルへの刺激でペニスが勃起しておるな。

ふふ、初めてのアナニーで感じるなど…貴様はやはり変態だな。

ここに置いておくのが惜しい、ともに魔界に向かうか？

様々なモンスターの性器でアナルを犯され、これまでとは比較にもならない快楽を刻ませてやりたいものよ。

…ふふ、ほれ：アナルを指先でほじくりながら：想像してみなさい。

獣臭いペニスがアナルに宛がわれ：穴の回りをくると撫で回すのだ。

モンスターどもの硬くなった陰茎は貴様が想像するよりも大きく：太いぞ。

自分の指とは比べものにもならないペニスが、貴様のアナルに少しずつ挿入されていく…

ほれ、もっと指を深く挿入しなさい。

男には、前立腺という快感を覚える場所があることは知っておろうな？

そこを刺激すると…それはもう夢のような快感を味わえるのよ。

ほれ、少し：探してみなさい。

指の向きを変え、第一関節：第二関節まで：入れていくと：今までの柔肉とは異なる…コリコリと：少々硬めの感触がある場所を見つけるのだ。

…ん…：…ふふ、見付けられたか？

そこをじっくり押し込むように刺激なさい。

体の内側から熱がこみ上げ：不思議と喘いでしまうであろう？

そこをな…：ペニスでごりごりと押し潰されるのよ。

射精するのとは全く異なる感覚だ。

頭の中が真っ白になり：体が浮いてしまうような快感に：襲われるのよ。

ほれ、しかと前立腺を刺激なさい。

指の腹でごりごり、ごりごりと押していくのよ。

ふふ、ペニスが反り返り、びりりと血管が浮き出てる。

そのうえビクビク震え：なんと可愛いペニスカ。

いいぞ、そのまま続けなさい。

ペニスから我慢汁を溢れさせ…：アナルをほじくるのだ。

私も：熟れたクリトリスをコリコリするでしょうか…

くく…：ペットの痴態を眺めながら耽るオナニーは極上よ。

くちよくちよ卑猥な音を立てる愛液がまた…：よいわ。

ふ…んっ…：…ふふ、はあっ…：貴様のペニスからは我慢汁が止まらないな。

だらだらと溢れ…：床を汚しておるわ。

そんなにアナニーが心地よいと申すか？

先ほどから喘ぎ声も止まず、必死に前立腺を刺激しておる…

だが…：まだ前立腺で射精することも…：メスイキをすることもできぬか…

よいだろう、貴様にはメスイキができるようになるまで調教をしてやろう。

しかし今はまず……貴様の金玉に溜まった精子を出させてやろうではないか。  
ほれ……名残惜しいじやろうが、今はアナルから指を抜き……我慢汁が溢れたペニスを握りな  
さい。

互いにオナニーを見せ合い、絶頂を迎えましょう。

FO

## トラック5…相互オナニー

魔王、オナニー。とどこどころ喘ぎながら

それにしても…貴様のペニス…射精したくて堪らないと我慢汁を溢れさせておるな。  
ほれ、互いのオナニーを見せつけ合いながら絶頂を迎えようではないか。

ふふ、まずは腹にまでついてしまいそうなほど反り返っている勃起ペニスを握りなさい。  
そして…シコシコしこり、吐精するのだ。

よいか？ 私の言う通り、上下にしこるのだぞ？

ほれ…（ゆっくりシコシコ…と4回）

くく…気持ちよさそうな声をあげておるな。余程ペニスへの直接的な刺激欲しかったか…

（シコシコ…と6回）

ふん…これまでのペットには、私よりも早く絶頂を迎えることを許してはこなかったが、今回は特別に許そう。

私が果てるよりも前に、一度射精するとよい。激しく…しこるのだぞ？

（激しくシコシコ…と6回）

私はな…ん…はあ…あ…誰とも交わらず…うつ、ふうっ…ただペットの痴態を見…ああつ、ふうっ…ん…クリトリスを弄り…自慰に耽る毎日よ。

だからな…はあつ、んうつ、ああつ…ここは…誰にも貰われたことのない…人間でいう処女マンコだ。中はキツキツで…よく締まるのであろうな。

ふん、高貴な私の身に触れることは決して許さぬが、これも今回限りは特別だ。

私のマンコに…貴様の勃起ペニスを挿入している…という想像をすることだけは許可してやろう。

ほれ、自分のペニスを上下にしこりながら、よく見るとよい。

割れ目から愛液を溢れさせ、床を濡らし…んっ…んん…くばあと広げたマンコのココにある…クリトリスをな、それはもう激しく擦るのよ。

あっ…はあつ、ん…貴様の声は本当に響くなあ。

ついいつもよりも激しくクリトリスを刺激してしまうわ。

くく…私のマンコを見て、そんなに激しく扱くというか、よい気分だ。

ほれ、今度はゆっくり上下に扱いてみなさい。

……握る強さは一定じゃぞ、ただ扱くスピードだけを変えよ。

(ゆっくりシコシコ…と6回)

よいぞ、きちんと喘ぎなさい…

(シコシコ…と6回)

んっ、はあっ…あ、ん…貴様のその声が…痴態が…私を興奮させるのだ。

マンコをぐちょぐちょに濡らし、ああっ、んっ…ふうっ、っ…クリトリスをコリコリしてしまうなあ！

ふふ、どうだ、貴様もより興奮してきたか？

くく…さすがは私のペットだ。

自分がどれだけ気持ちよくなっておるか、素直に言うようになったか。

ペニスが反り返り、大きく頷いておるぞ。…そのままスピードを速めて扱きなさい。

(速めにしこしこ…と6回)

ん…ん…ペニスが震えておるのう。

血液が沸騰しているかのように体が熱いか？ 射精したいと申すか？

よいぞ、私より先に一度果てておくといい。

だがな、貴様の低俗な精子を私にかけるではないぞ？

貴様の遺伝子など私には不要だ。己の手のひらに全てを吐き出しなさい。

ほれ、激しくしこしこ扱いて果てるのじゃ…

(激しくしこしこ…と4回)

くく…そろそろ出せそうか？

出せ、出せ…出しなさい！

これまでのオナニーで溜まった精子をびゆるびゆる出し切りなさい！

(激しくしこしこ…と6回)

ほれ、今じゃ、出しなさい！

SE:射精音

んっ…んんうっ、ン…ンン、んうっ、んっ…ああっ、はあっ…！

ふふ、貴様は射精できたようじゃな。

くく…部屋全体が濃い匂いで包まれておるわ。

しかし…私のココはまだ足りぬと言っておる。

貴様が淫らに揺れ、私が酷く興奮し果てるまで…この時間は終わらぬぞ？

(囁くように) いや、貴様にとっては…この時間は終わらない方が幸せなのかもしれぬがな

…くく…

アンアン喘ぎ、乱れ…私を絶頂へと導くだけのサカナとなりなさい。貴様は…そのためのペツトよ。

ふふ…話はここまでにし、相互オナニーは続行だ。

どうせ貴様のペニスはすぐに勃起し、精子を出したがるのであろう？  
しかともう一度、私に射精する瞬間を見せてみなさい。

けれども…そうだな、犯されているかのような感覚が味わえるよう…四つん這いになりなさい。

私がアナルの収縮をよく見られるように、な。

ふふ…そうだ、それでよい。貴様のアナルがよい具合に見えるぞ。

くく…私にアナルを見せつけることにすら、羞恥心がなくなったようだな。

（愉快そうに）私に見られ過ぎて、感覚が馬鹿になったか。

ほれ、己の精子を潤滑油にして…欲望の赴くままに…アナルに指を入れなさい。  
やり方はもう知っておるよな？ 前立腺を探し、ゴリゴリ刺激をするのよ。

一度入れておるのじゃ、もう慣れておるだろう？

精子を絡ませた指で…ぬっぷりと…穴を塞ぐのだ。

ふふ…んっ…ふうっ、ン…アナルを少し指で擦っただけで喘ぐようになったか。

やはり貴様には才能がある。

そのまま指を出し入れし…そこ…もつと…奥じゃ…前立腺を刺激しなさい。

貴様は既に前立腺を刺激した時に得られる快感を知っておるだろう？

…ゆっくり指を入れて…出してを繰り返すのだ…

柔肉に擦り付けるように、しっかり指を押し込むのだぞ。

ああ、そうして…次にやることはわかっておるな？

第二関節まで指を入れたら…前立腺を見付けなさい。

一度見付けているのだ、大体の目安は付いておるだろう？

ほれ…んっ…はあっつ、ん…ふふ、前立腺を探し出せたようだな。

ペニスが震え、悦んでおるわ。

ふふ、私もな…クリトリスを…こうして…あつ、…はあ、んうっ、ふ…ンッン…指で何度も擦り…押すと…頭が真っ白になってしまいそうなくらい、気持ちがよいのよ。  
くく、堪らないの…

これから毎日貴様を調教し…オナニーをしてなお、決して飽きぬだろうな。



どうした、前立腺を刺激せぬのか？

そろそろ私のことなど忘れ…一心不乱に前立腺を弄りなさい。

私は貴様のオナニーを眺め見て、マンコを弄り続けるからな。

そうだ…前立腺を刺激すると同時に、ペニスを扱くのだ。

2倍、3倍…いや…それ以上の快感を得られることになるであろう。

やりやすい方の手で構わぬ。

片方の手でペニスを握り…もう一方の手でアナルをほじりなさい。

くく…こうすると…アナルへの快感を得ながら、射精も促せる、よいであろう？

アナルへの刺激で感じられるように手助けをしてやるのよ。

ふ…アナルだけを弄っても感じられる貴様には、そもそもペニスへの刺激はいらないかもしれないが…

それにしても…愛液がくちゅくちゅ混ざり合う音と、貴様の指を出し入れする音が交互に聞こえてきよる。

ここまでくると…音だけで興奮できるやもしれぬな。

ペニスを扱き、アナルを弄りながら…一度目を瞑ってみなさい。

快感がより鮮明になり、私の指示も脳に響くであろう？

ほーれ、シコシコ、シコシコしなさい。

(独り言のように) つ…あぁっ、ふうっ、ン…あぁっ、はぁ…実に気持ちがいぞ…

やはり貴様が乱れる姿は…オナニーがはかどる。今にも…果てることができそうだ…

くく…貴様も、呼吸が乱れておるのう。つ、はぁっ、あ…そろそろ射精してしまいたいかな？

ふふ…その様子では…返事をする余裕もないほどに、感じておるようだな。

だが、まだ激しく扱けるな？ アナルもじゃ…前立腺をゴリゴリしなさい。

ほれ…(ゆっくりシコシコシコシコ…と3回)

ふふ、いい声で啼く…

(ゴリゴリゴリゴリ…と3回)

よいではないか、よいではないか…私も限界が近付いてきたわ。

もう…じき…絶頂を迎えられようぞ。

ああ…貴様もか？ 貴様も射精したいか？

ふふ、許可しよう。しかと快感を覚え、精子を出し尽くしなさい。

もちろん…やり方は理解しておるな？

(シコシコシコシコ…ゴリゴリゴリゴリ…を2回)

ん…はあっ、ふう、んっ…高まっておるな？

ほれ…ああっ、はっ、ん、ふうっ…さらに続けなさい。

(興奮したようにシコシコシコシコ…ゴリゴリゴリゴリ…を2回)

よいぞ…そのまま喘ぎ、手を休めるなよ？

私も…もうすぐイキそうだ…ともに参ろう…より激しく刺激し…果てようぞ。

(激しく余裕がなさそうにシコシコシコシコ…ゴリゴリゴリゴリ…を3回)

んっ、ふうっ、ああっ…はあっ、いつ、いいっ…イキなさいいっ…！

びゅるびゅる精子を出しなさい…！

あっ…っああっ、ああう、んう、ふうっ…あっ、ああっ、あああああっ――

SE:射精音

(呼吸を乱す)

ああ…あ…ふふ、貴様大量に出したな…床が精子で汚れておるわ…

ふふ、私も…負けじと…絶頂を迎えてしまったがの…

ふっ…明日もまた、調教をしてやろう…

貴様は汚したところを綺麗に掃除しておきなさい。

FO

## トラック6…事後。ピロートーク。

ふふ…まだ疲れておるようだな…

だがそれもそうか…初めての調教にしては、よく耐えたものよ。

ここが魔界であれば、休息も与えず…このままモンスターに犯されるよう仕向けるのだが…ふん、貴様は運がいい。

ただ快感だけを与えられ、眠れるのだからな。

それにしても…貴様のような逸材にはなかなか出会えぬ。

魔界では己の舌を噛み切り、死に行くペットも絶えなかったのだが…貴様は快楽に負け、最後までやり終えるとは…ふふ、褒めて遣わそう。

だがな、人間の恋人同士がやるような…行為はせぬぞ。

貴様の体には触れぬ、人間の肉体など汚らしくて敵わんからな。

けれども…ふふ、今日ばかりはともに体を休めることを許可してやろう。

最後まで調教を終えた褒美じゃ。

明日はより一層激しく執拗に調教をしてやるからな、きちんと休みなさい。

無論、食事はこれまで通り努力せよ。

貴様の作った料理はまだまだ食べたものではないからな。

ふふ、安からな顔をしよって…よっぽど調教内容が気に入ったのだな。

稀有な人間もいるものよ…

共に魔界に来るか？

あそこであれば、ここよりも激しく…その身に深い快感を得られることが出来るぞ？もちろん、私のペットとして飼いならしてやるわ。

ふん、意気地なしめ。

こんな世界は捨て置いて、今日のように、ただ欲望に身を任せればいいものを…だがいいだろう。

私が魔界に戻る日が来るまでの間、おなごを抱けなくなるほどに…調教してやろう。光栄に思えよ、人間。